

平成 24 年度 岐阜工業高等専門学校シラバス				
教科目名	卒業研究	担当教員	環境都市工学科教員	
学年学科	5年 環境都市工学科	通年	必修	8単位
学習・教育目標	(B-1)(30%)、(B-2)(30%)、 (C-1)(30%)、(C-2)(5%)、JABEE 基準 1 (1):(d)(e)(g)(h)(f) (D-5)(5%)			
授業の目標と期待される効果： 興味がある研究テーマを選択し、1年間という長期に渡り実験、調査、数値解析などの手法を駆使し研究に取り組み、成果を卒業論文としてまとめ発表する過程の中で、以下の6項目の目標を達成する。 ①日本語で適切な発表と議論ができる ②英語で論文の要旨を表現できる ③適切な構成で論文を作成でき、適切な日本語で論文を記述できる ④問題点と課題を理解する能力があり、計画を継続して実行し、基礎知識を活用する能力がある ⑤総合的にみて論文作成能力がある ⑥異なった研究領域、分野を理解する能力がある	成績評価の方法： 論文については、①論文題目、②英文要旨、③構成、④記述、の適切さを観点に評価を行う。発表については、①概要、②準備と構成、③説明、④質疑応答、の適切さを観点に評価を行う。研究全体を通し、①取り組みの姿勢、②内容の理解、③研究成果、を観点に評価を行い、可否を判定する。 達成度評価の基準： 環境都市工学に関する基礎・専門分野を総合的に習得し、学会等の発表に要する能力の6割以上を身に付ける。下記①～⑥の成績評価への重みは均等である。 ①日本語で適切な発表と議論ができる ②英語で論文の要旨を表現できる ③適切な構成で論文を作成でき、適切な日本語で論文を記述できる ④問題点と課題を理解する能力があり、計画を継続して実行し、基礎知識を活用する能力がある ⑤総合的にみて論文作成能力がある ⑥異なった研究領域、分野を理解する能力がある			
授業の進め方とアドバイス： 指導教員の助言のもと研究を行うのであるが、教員からの指示を待つのではなく、自発的に取り組むこと。学生自身による問題提起、新たな研究手法の提案、など自由な発想を期待している。				
教科書および参考書： 本論および概要は配布される「卒業研究実施要領」にそって作成し提出する。				
授業の概要と予定： 4 学年時に各教員により研究内容等に関するガイダンスを行い、学生の希望を重視した形で指導教員の仮決定（研究室の仮配属）を行う。仮配属の結果をもとに、5 学年時当初に正式な配属を行う。 年度途中で中間発表を行い、進行状況を確認すると共に、テーマ設定の適切さなどについて教員より助言を受ける。2 月下旬に論文を提出し、発表会を開催する。論文、発表および卒業研究について総合的な成績評価を行う。評価の結果をもとに、学科で可否を判定する。評価の結果、成績向上の可能性がある場合には可否判定を保留し、本論の再提出、概要の再提出、再発表、再質疑などの指導を行う。指導後に、成績の再評価を行い向上が認められた場合には合格と判定する。各指導教員の主な研究内容を以下に示す。 鈴木孝男研究室 ・岐阜県下の地下水の流動解析 ・揚水量の変動を考慮した帯水層定数の同定 岩瀬研究室 ・鉄筋可視化教材の開発と鉄筋コンクリートの耐久性に関する研究 ・表面含浸材によるコンクリートの性能向上と評価に関する研究 和田研究室 ・河川魚類の生息場の評価 ・大気拡散物質の解析・予測モデル 吉村研究室 ・森林整備と森林資源の有効利用に関する研究 ・道路の凍上防止に関する研究 鈴木正人研究室 ・降水量や気温など気象現象の長期的変動に関する研究 ・異常気象の生起性に関する研究 廣瀬研究室 ・震災復興・都市公園・景観まちづくりに関する研究 ・道路構造・側溝・舗装構造に関する実験的研究 水野和憲研究室 ・地盤の安定問題に関する基礎的研究 ・アルミ棒を用いたゆる詰め積層体の力学特性の把握 角野研究室 ・微生物を利用した排水処理システムの開発 ・排水処理に関わる微生物生態の評価				

坂本研究室

- ・ 集中豪雨時における交通対策手法の検討
- ・ 統計データに基づく交通行動の分析

水野剛規研究室

- ・ 鋼構造物の耐震性能評価と性能照査型耐震設計法の提案
- ・ 鋼構造物の耐震性能向上に関する検討

渡邊研究室

- ・ 腐食による凹凸を持った板の強度解析
- ・ 面的構造の折畳み経路解析

東海林研究室

- ・ 斜面冷気流による住宅街区の気温低減効果の実態調査
- ・ 気象モデル（WRF）による局地気象場再現性の検証